

坪井川緑地(公園)における再整備・維持管理運営事業 【事業概要説明資料】

1. 事業の目的

坪井川緑地は、熊本市中心部近傍に位置する敷地面積97,000㎡の公園で、市内で唯一の超大型複合遊具「ひごっこジャングル」や、夜間の利用が可能な有料運動施設を備えており、日常の散策等からスポーツまで幅広く利用されています。

しかし、同公園は1993年の整備から間もなく30年が経過し、老朽化する施設の大規模改修が必要な時期に近づいていることや、駐車場で駐車出来る台数が不足している等の課題があります。

また、熊本市では公園の更なる活用（コンビニ・カフェ・レストラン等の誘致）を検討しているところであり、新たなスポーツ施設などの設置についても要望がきています。

これらの課題等に対応するため、坪井川緑地（公園）における公園施設の大規模改修及び再整備、民間事業者による利活用、多様な市民ニーズ等に対応した魅力的な公園づくりなどを実現するために、官民連携事業の導入可能性を検討しています。

2. 坪井川緑地の概要

坪井川緑地は、県が管理する坪井川遊水地の一部を熊本市が借用して県と共同で公園として開設している都市計画公園で、開設面積は97,000㎡です。

熊本市中心部の近傍で交通アクセスもよく、夜間の利用も可能な運動施設を備えており2019年度は延べ約46.3万人の利用実績があります。

また、熊本市内で唯一の152のアイテムで構成される超大型複合遊具「ひごっこジャングル」を備えており親子連れの利用も多く、開けた敷地であることから散策地ウォーキングエリアなどとしても利用されています。

なお、「熊本市地域防災計画（令和3年度版）」において坪井川緑地は「清水校区」の「指定緊急避難場所（地震、高潮、土砂、津波）」に指定されています。



表 1 事業対象地の概要（現状）

名称	坪井川緑地	
設置年月日	平成 5 年 11 月 1 日	
面積	97,000 m ² (熊本県: 42,500 m ² 、熊本市: 54,500 m ²)	
所在地	熊本市北区清水町大字室園、黒髪町大字坪井、清水町大字打越	
交通 アクセス	・熊本市中心部近傍で国道 3 号線に隣接。 ・バス停・電車等の駅が近傍にあり。 ➢ 室園町・アイミースクエア前(熊本電鉄バス)より徒歩 3 分 ➢ 坪井川公園駅(熊本電鉄)より徒歩約 5 分 ➢ 北熊本駅(熊本電鉄)より徒歩約 5 分 ・145 台が駐車可能な駐車場を整備。	
公園施設	有料運動施設 (夜間照明あり)	人工芝テニスコート 4 面 野球場 1 面(ソフトボール場としては 2 面)、 多目的運動広場(サッカー、ラグビー、陸上競技等が可能)
	遊戯施設	ひごっこジャングル、スプリング遊具、雲梯、ブランコ
	その他	管理棟、ベンチ、東屋、街灯、トイレ、園路、樹木等
開園時間	次のうち12月 29 日～1 月 3 日は休止日。公園自体は年中立入と利用は可能。	
	運動施設、駐車場	3 月 1 日から 10 月 15 日まで: 6 時～22 時 10 月 16 日から翌年 2 月末日まで: 7 時から 22 時
	ひごっこ ジャングル	4 月 1 日から 9 月末日まで: 8 時 30 分～18 時 10 月 1 日から翌年 3 月末日まで: 9 時～17 時 <休止日> 第 2 第 4 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日火曜日)



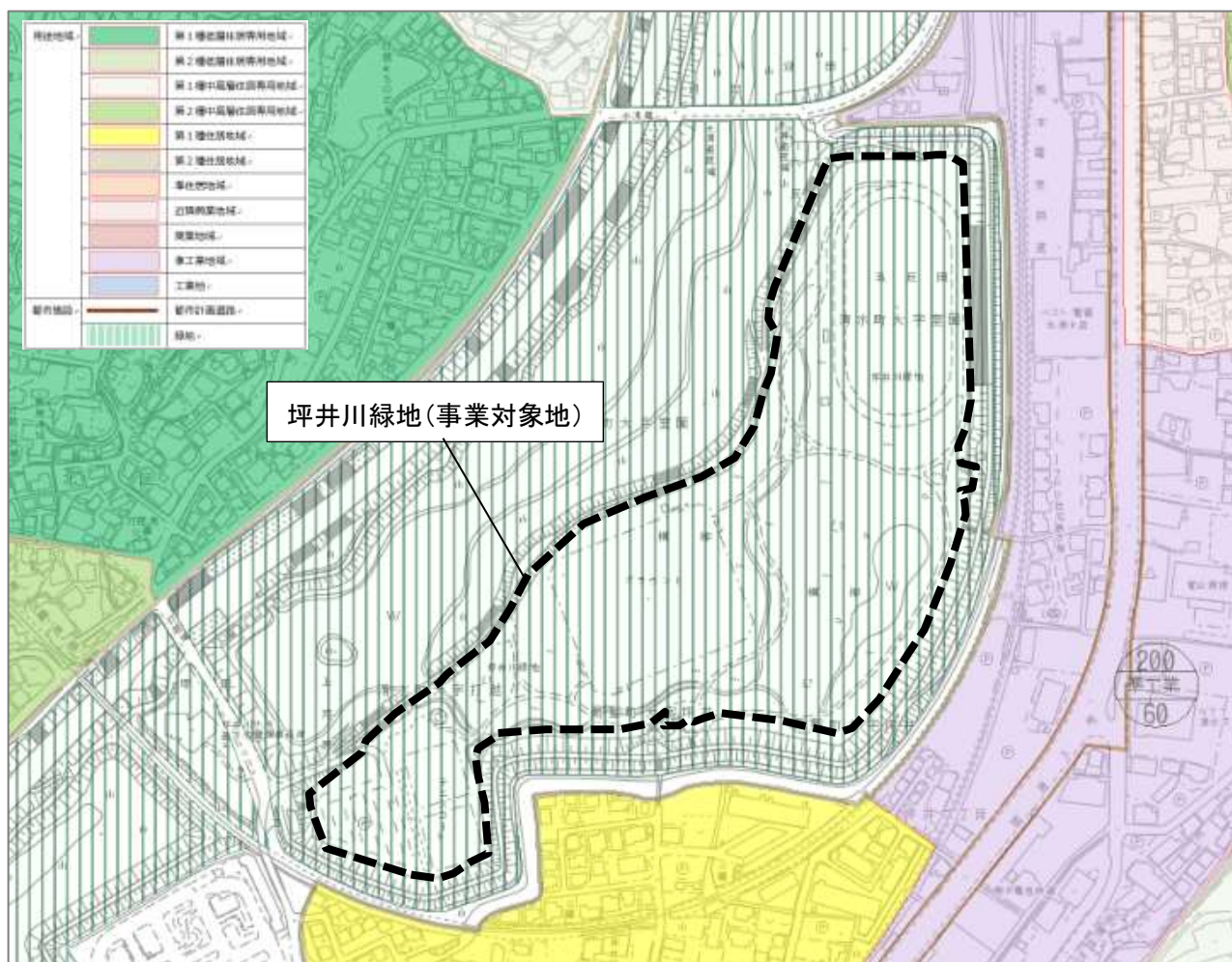
図 2 事業地位置図



図 3 アクセス条件

表 2 土地利用上の制約

遊水地	● 県所有の遊水地を借用して公園として開設 ・設計上は30年確率で冠水することとなっている。 ・事業実施にあたっては熊本県との協議が必要。 ● 遊水地としての諸条件(施設設置の技術基準) ・配置、構造は排水時の越流部(排水門を含む)における流入、流出及び湛水に支障をきたさず、倒壊、浮遊、移動しないよう配慮する。 ・公園施設は特にやむを得ない場合で、堤体保全のための適切な安全措置を講じその利用を図るものを除き堤防定期断面には設置しないものとする。 ・公園完成後の形状変更については、計画貯水量その他流水の疎通に影響のないようにする。
都市計画	● 都市計画公園(緑地)、市街化調整区域 ● 公園施設の建築面積、運動施設の敷地面積の基準等(容積率は200%) ※建築物(管理事務所等):公園敷地面積の2% ※建築物(休憩施設、P-PFI施設等):上記値+10% ※運動施設(野球場、グラウンド等):公園敷地面積の50%
地形	・概ね平坦で緩く勾配がついている程度で帯水しやすいため、適切な排水処理施設が必要(事業地においてUAVレーザ測量を実施済み)
地質	・現況地盤高さから深度14mまではN値が0~8程度の緩い粘性土及び砂質土 ・深度14mから25mまではN値が30~40程度の比較的締まった砂質土・砂礫土を確認(野球場西側付近においてφ66mmボーリング調査1本、標準貫入試験、物理試験を実施済み)



出典：熊本市地図情報サービス

図 4 用途地域指定の状況

表 3 その他の留意所事項

建築物	遊水地として冠水する可能性があることから、少なくとも地盤から高さ4m以上が建築物の床面と考えることが望ましい
テニスコート	国の補助事業により改修を実施したことから原則として撤去や移設は当面の間、出来ない。
運動施設使用料	使用料等は熊本市都市公園条例によって定められていることから、料金を改定する場合は条例の改正が必要である。
バリアフリー対応	「熊本市移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める条例」に基づき、原則としてすべての施設はバリアフリー対応とする必要がある。

3. 坪井川緑地整備の経緯

坪井川緑地（公園）は、熊本市を貫流する二級河川坪井川の改修全体計画に基づく「都市河川治水緑地事業」及び「多目的遊水池事業」により造成されたもので、整備当時、市民の間にスポーツ、レクリエーション需要の高まりがみられる中であったことから、地域住民の福祉向上を図る目的で運動施設を中心とした緑地として整備されました。

4. 現在の坪井川緑地が抱える課題

4.1. 施設の老朽化

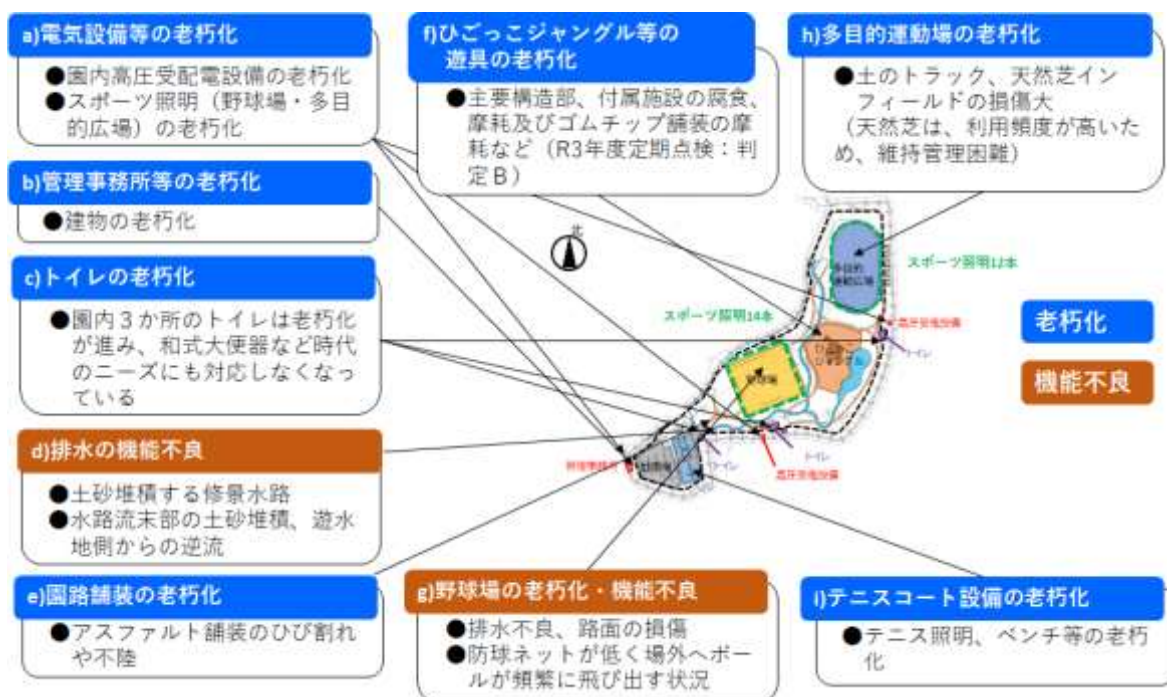


図 5 施設の老朽化



図 6 主要な老朽化の状況

4.2. 新たなニーズ等への対応

表 4 新たなニーズ等

項目	概要対応等
①駐車場の混雑等	・現在、公園には 145 台が出来る駐車場を備えているが、不足している状況 ・近隣商業施設への迷惑駐車や、堤防裏の道路での路上駐車などのトラブルも発生している ・大型連休中は交通誘導員を配置することや、公園の広場を臨時駐車場にするなどの対策をしている ・駐車可能台数を増やすなどの抜本的な対策が必要
②広場や園路でのアーバンスポーツの利用	・広場や園路でスケートボードや BMX を行う利用者がいる ・他の公園利用者から「近くを歩いていたらぶつかりそうで怖い」、「歩くときに邪魔だ」、「お酒を飲む、煙草を吸う、夏場は上半身裸などマナーが悪い」、などの苦情が寄せられている ・特に東京オリンピックでの日本人選手の活躍を受けてプレイヤーも増えている状況 ・熊本市内にはアーバンスポーツをプレイする場所が少ないなどの課題もある ・専用施設を整備するなどの抜本的な対策が必要
③犬の散歩による利用	・公園内を犬と散歩する利用者が多い ・他の公園利用者から「犬が芝生内で糞尿をすることが不衛生だ」といった苦情が寄せられている ・熊本市内にはドッグランが少ないことからドッグランの整備要望のご意見をいただくことがある ・専用施設を整備するなどの検討が必要
④飲食にかかる施設	・公園近隣の徒歩圏内にある飲食店の数等が少ない状況 ・事業者から自動販売機の設置について相談を受けることもあるが、「遊水池」という立地特性上、設置可能な場所も限られている ・公園利用者のニーズに応える検討が必要
⑤維持管理にかかる収入と支出	・2020 年度の収支は、有料運動施設使用料の収入が 1,152 万円に対し、維持管理に要する支出は約5倍の 5,877 万円となっている。 ・今後も現状と同等以上のサービスを提供することや、魅力的な公園づくりにあたり持続可能な収支を実現する必要がある

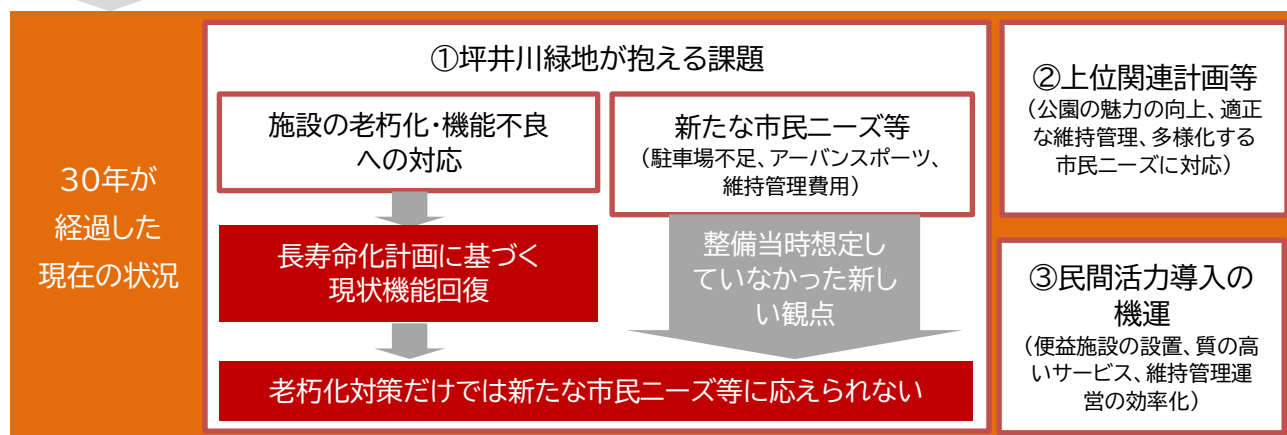


図 7 新たなニーズの状況

5. 事業の考え方・基本方針(案)

坪井川緑地
整備当時の
思想

市民の間にスポーツ、レクリエーション需要の高まりがみられる中であったことから、
地域住民の福祉向上を図る目的で**運動施設を中心とした緑地**として整備



坪井川緑地の新たな姿を検討する必要性

【再整備・維持管理運営等のコンセプト】

多様なニーズに応える公園

整備当時の運動施設を中心とした緑地という思想を、日常の散策等から遊具を中心としたレジャー、多様なニーズに応えるスポーツ施設や、飲食物販等の便益施設などを備える公園へと進化する

幅広い世代の人たちから愛される公園

年齢が変化して公園の利用方法が変わっても、変わらずに愛される公園を目指す(例:レジャー遊具の利用から、運動施設の利用、日常の散策等へと年齢の変化に併せて利用形態が変わっても愛されるようにする)

質の高いサービスを持続的に提供できる公園

日常的な除草清掃や、施設の保守点検なども含めて適切な維持管理運営等が実施されているようするために、便益施設等の利用により得た収益を公園利用者へ適切に還元するなどの方策を検討する

コンセプトに対応した再整備・維持管理運営の基本的な考え方の検討

公園面積について

坪井川緑地周辺の遊水地(未公園区域)については、現状公園として開設しているエリアは浸水する確率は5年または10年、15年に1度の設定となっており(既存公園エリアは30年に1度)、浸水確率が高く維持管理運営上の支障となること。また、未公園区域の遊水地には希少生物等が生息しており、環境保護の観点も踏まえ、公園面積は**現状の区域から変更しない**こととする。

既存の運動施設について

整備当時の思想継承の観点から、原則として既存運動施設(多目的運動広場、テニスコート、野球場)は位置や施設規模を含め現状の維持を原則とするものとする。
併せて、老朽化等への対処としての大規模改修を対策の原点としつつ、市民ニーズ及び熊本市(公園管理者)が抱える課題、周辺における類似運動施設の整備状況等を加味して、**再整備の基本的な考え方を検討**するものとする。

多様なニーズへの対応について

市民ニーズと熊本市(公園管理者)が抱える課題の解決につながる施設について、周辺における類似施設等の不在性も加味して、**整備を検討**する。
併せて、公園の利便性及び魅力向上に繋がり、かつ民間活力導入の可能性が高まる**施設の整備や配置計画等について検討**する。

整備水準の検討

大きく分けて3つの観点から整備水準を検討する

老朽化等対策

整備水準としては、最低限絶対を実施すべき事項

既存施設の機能向上

駐車場、多目的運動広場、野球場、テニスコートの既存施設について、多様なニーズへの対応や公園魅力向上、収益性の向上などの観点から検討

新たな施設の整備

多様なニーズへの対応や、公園魅力向上、収益性の向上、民間活力の導入可能性といった観点から検討

6. 整備水準の考え方(案)

表 5 整備水準の考え方(案)

	対象施設
①老朽化等対策	a)電気設備改修
	b)管理棟、倉庫等改修
	c)トイレ改修(3棟必要)
	d)水路改修
	e)園路舗装改修
	f)ひごっこジャングル他、遊具改修
	g)野球場改修(グラウンド舗装、スポーツ照明、防球ネット)
	h)多目的運動施設改修(走路、フィールド舗装、スポーツ照明)
	i)テニスコート改修(ナイター照明、ベンチ等)
②既存施設の機能向上	j)駐車場増設(園内施設へのアクセス性向上)
	k)多目的運動広場の改修(フィールドの稼働率、利便性の向上、観覧機能の向上)
	l)野球場改修(レイアウト、競技施設仕様アップ)
	m)テニスコート改修(増設)
③ニーズ等に対応した新たな施設の例	n)駐車場増設(利用促進に対応した台数を確保)
	o)アーバンスポーツ施設の設置
	p)収益(飲食物販)施設の設置(管理棟と一体整備)
	q)ドッグランの設置
	r)利用促進に向けた園路、広場等の空間整備(幹線園路、広場の設置)
	s)利便性に配慮したトイレ配置
	t)利便性に配慮した休憩施設

7. 事業スキーム(案)

本事業は、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）に基づき、民間事業者の創意工夫やノウハウ等を活用する「PFI方式」を導入して坪井川緑地再整備を行うとともに、都市公園法に基づき、民間事業者が坪井川緑地の魅力向上を図るため民間収益施設（以下、「公募対象公園施設」という。）を設置し、当該施設から生じる収益を活用して、公募対象公園施設との一体的な整備により魅力向上が期待される公園施設（以下、「特定公園施設」という。）の整備等を一体的に行う「公募設置管理制度（以下、「Park-PFI」という。）」を併用して実施することを想定している。

なお、PFI事業は、本事業のうちPFI事業を実施する事業者（以下、「PFI事業者」という。）が坪井川緑地の再整備に係る設計及び建設・工事監理業務を行い、事業期間中、指定管理者として坪井川緑地の維持管理・運営業務を行うことを想定している。

一方、Park-PFI事業は、認定計画提出者が公募対象公園施設の設置・管理運営を行うとともに、特定公園施設の整備を行うことを想定している。

特定公園施設は、市に無償譲渡するものとし、譲渡後の特定公園施設は、PFI事業の対象として、PFI事業者が維持管理・運営を実施することを想定している。

表 6 想定する事業内容と事業スキーム（案）

事業種別		対象
PFI事業	特定事業	運動施設改修設計整備 ・テニスコート改修(ナイター照明、ベンチ等)・機能向上(2面増設) ・野球場改修(グラウンド舗装、スポーツ照明、防球ネット、レイアウト、競技施設仕様アップ) ・多目的運動広場改修(走路・フィールド舗装、スポーツ照明、フィールドの稼働率・利便性の向上、観覧機能の向上) 遊具改修整備(ひごっこジャングル、幼児遊具) アメニティ施設(トイレ3棟)、休養施設改修設計整備 園路・広場・水路・植栽改修設計整備 電気設備改修設計整備(受電設備、高圧配電線路)
	自主事業	公園を使用した事業(イベント、教室、自販機の設置等)
P-PFI事業	公募対象公園施設	収益施設(物販・飲食、管理施設機能も合築)の設置・管理運営 有料施設(アーバンスポーツ施設、ドッグラン)の設置・管理運営 有料駐車場の設置・管理運営
	特定公園施設	今後の民間事業者との対話を通じて検討
	利便増進施設	事業者提案による(駐輪場、広告の設置・管理運営等)
指定管理者制度		PFI事業により整備された施設の管理運営 P-PFI事業により整備された特定公園施設の管理運営

8. 事業スケジュール(案)

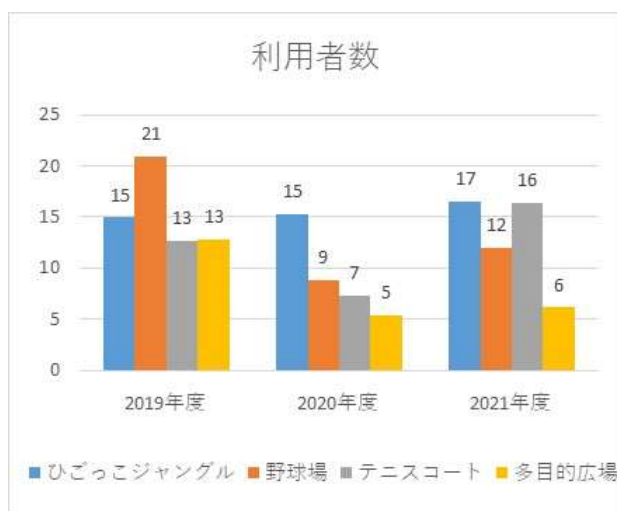
- 令和4年度：基礎検討調査実施
- 令和5・6年度：アドバイザー業務・契約手続き（予定）
- 令和7年度以降：事業実施

9. 参考資料

9.1. 利用状況

表 7 利用状況

種別	施設	利用状況
無料施設	ひごっこジャングル	・春と秋の利用が多く、夏に利用が減少。
有料施設	野球場	・利用者が減少傾向にある。 ・夏の利用が多く冬に利用が減少。 ・全面を使用した野球利用が多い。
	テニスコート	・利用者が増加傾向にある。 ・春と夏の利用件数が多い。 ・1面当たりの利用件数が最も多い。
	多目的運動広場	・利用者が減少傾向にある。 ・年間を通じて大きな変動はない。 ・フィールドを使用したサッカー利用が多い。



※2019.3.1～2020.5.17コロナ感染対策で休園

9.2. 利用料金

表 8 利用料金

施設種類	利用区分	施設使用料	夜間照明使用料 (施設使用料に加算)
多目的運動広場	全面貸	870 円/時間	1,860 円/時間
	部分貸(球技面)	440 円/時間	
	部分貸(陸上競技面)	430 円/時間	
野球場	全面貸(野球)	620 円/時間	1,370 円/時間
	半面貸(ソフトボール A 面)	310 円/時間	1,370 円/時間
	半面貸(ソフトボール B 面)	310 円/時間	1,120 円/時間
テニスコート	1 面(大人)	750 円/時間	1,120 円/時間
	1 面(高校生以下)	380 円/時間	

9.3. 稼働率

表 9 稼働率

	多目的運動広場 (1面)	野球場 (2面)	テニスコート (4面)
最大稼働時間 (開園日数×開園時間×施設 の貸出面数)	5,614 時間	11,228 時間	22,456 時間
実績稼働時間 (三ヵ年平均値)	2,041 時間	2,944 時間	11,239 時間
稼働率(理論最大)	36%	26%	50%
稼働率(雨天を考慮)	51%	36%	70%

9.4. 収支状況

表 10 坪井川緑地の維持管理に係る費用＜支出＞

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
①公園施設管理及び運動施設 使用料収納業務委託	1,290 万円	1,569 万円	1,551 万円
②公園除草等業務委託	1,018 万円	957 万円	1,007 万円
③公園樹木剪定等業務委託	434 万円	211 万円	628 万円
④公園施設改修等事業	テニスコート人工芝張替 1,082 万円	テニスコート人工芝張替 1,159 万円 夜間照明操作盤改修 792 万円	テニスコート人工芝張替 1,133 万円 排水施設改修 242 万円
⑤公園施設修繕等費用 (ひごっこジャングル以外)	244 万円	322 万円	519 万円
⑥公園施設修繕等費用 (ひごっこジャングル)	29 万円	198 万円	30 万円
⑦光熱水費	623 万円	616 万円	561 万円
⑧トイレ清掃費	183 万円	208 万円	206 万円
計	4,903 万円	6,032 万円	5,877 万円

※①及び②については年間通じての契約を行っている。①では管理事務所に常駐して受付等管理するチームと、ひごっこジャングルで監視業務にあたるチームの2チームがある。③及び④については必要の都度実施。なお、テニスコートの人工芝については2017～2020年にかけて全面の張替が完了した。⑤の修繕にはトイレの詰りや電球交換、運動施設のフェンス修繕などの小規模な修繕を実施している。

表 11 坪井川緑地の有料運動施設使用料収入＜収入＞

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
運動施設使用料収入	1,011 万円	1,043 万円	1,152 万円

※運動施設の収入の割合傾向は多目的運動広場 6%程度、野球場 10%程度、テニスコート 42%程度、運動施設夜間照明 42%程度。運動施設使用料は2020年4月1日より料金改正され、全施設において改正前に対して約24%の値上げを行った

9.5. アンケート調査結果

坪井川緑地のリニューアルに関するアンケート調査を、令和4年10月11日（火）から令和4年10月25日（火）にかけて実施しました。結果概要は以下の通りです。

- 多様な目的で幅広い世代に利用されている
 - ・レジャー（遊具・ボール遊び等）、運動施設の利用、散歩等の目的で小さな子供からお年寄りまで多くの方が利用している。
 - ・1,728件（うち自由記述への回答が669件）の回答があり、興味関心が高いことがうかがえる。
- 駐車場への不満が多い
 - ・細長い敷地に対して駐車場が南側1箇所のため、駐車場から離れている施設（ひごっこジャングル、野球場、多目的運動広場）の利用者から不満の声が多い。
 - ・駐車場が少なく、広場を多少縮小して駐車場を増やしてほしい、場合によっては有料化しても良い、という意見があった
- 飲食物販施設・アーバンスポーツ施設のニーズが高い
 - ・魅力向上のための新たな機能として、約4割が「駐車場」「飲食物販施設（カフェ・レストラン・コンビニなど）」、1/3が「アーバンスポーツ施設」と回答
 - ・スケートボード等の専用施設を整備したほうが良い、3on3のバスケットコートが欲しいという意見も多い。
- 公園施設の機能向上が求められる
 - ・トイレをはじめとした公園施設の老朽化に対する意見が多い。
 - ・ベンチなどの休憩施設や日かげを増やしてほしいという意見が多い。

表 12 アンケート結果

項目	主な意見
ひごっこジャングル (n=676)	● 駐車場から離れており、アクセス性が悪い(46.0%) ● 施設が老朽化している(23.1%)
多目的運動広場 (n=129)	● 観覧席に屋根がなく日陰がない(41.1%) ● 芝生などの管理が不十分(38.8%) ● 駐車場から離れており、アクセス性が悪い(38.0%)
テニスコート (n=112)	● コート数が少なく、予約が取りにくい(51.8%) ● 施設が老朽化している(42.0%) ● いつでも利用できるよう屋根がほしい(40.2%)
野球場(n=120)	● 駐車場から離れており、アクセス性が悪い(45.8%)
駐車場(n=1378)	● 駐車できる台数が少ない(66.2%)
トイレ (n=1378)	● 施設が老朽化している(50.2%) ● トイレの数が少ない(38.2%)
園路・休憩所 (n=1378)	● 休憩場所(ベンチ・あずま屋など)が不足している(44.6%)
新たな魅力向上に繋がると 思う機能 (n=1698)	● 飲食物販施設(カフェ、レストラン、コンビニ等)(42.2%) ● 駐車場(41.1%) ● スケートボード、BMXなどのアーバンスポーツ施設(34.0%)

(n：有効回答数)

9.6. 熊本市の基礎情報

熊本市の人口は、今後減少傾向に転じますが、高齢化率は上昇していきます。

また、単独世帯の増加が今後より一層顕著になる想定です。

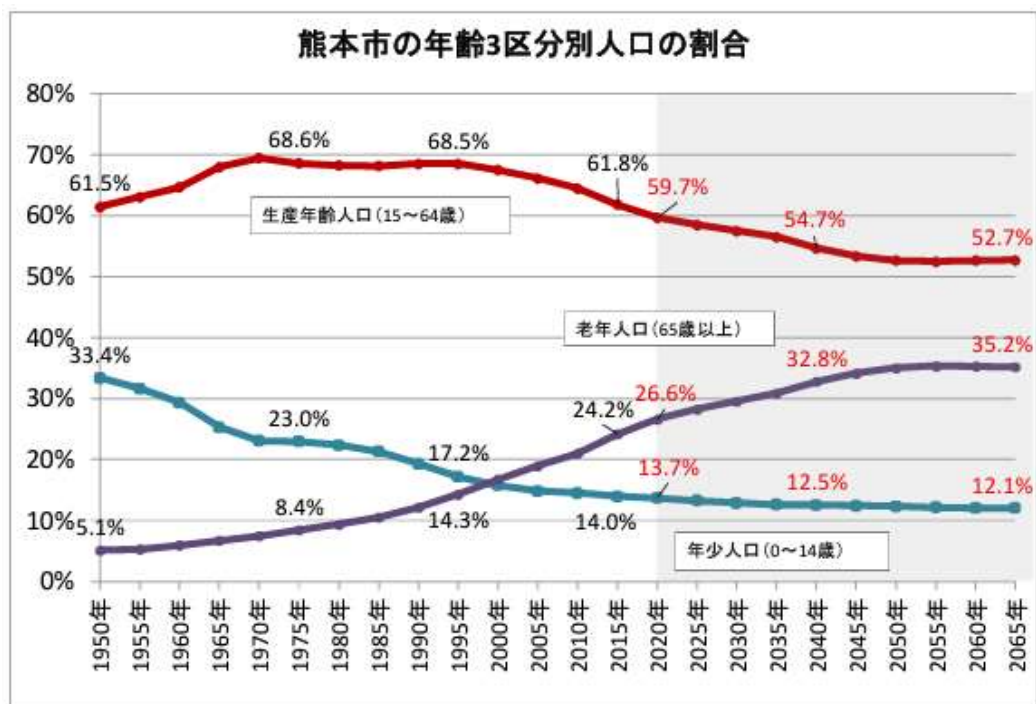


図 8 世帯数の推移

出典：熊本市人口ビジョン＜改訂版＞_令和2年3月



図 9 世帯数の推移

出典：熊本市人口ビジョン＜改訂版＞_令和2年3月

9.7. 上位関連計画での位置づけ

表 13 上位関連計画での位置づけ

計画	記載内容
熊本市第7次総合計画 (2020.3・熊本市)	第4章 豊かな人間性と未来へ飛躍できる力を育む教育の振興 第2節 学びと活動の循環による人づくり 【(6) スポーツ施設の整備・機能充実】 ア 多様化する市民ニーズに対応するために、既存スポーツ施設の機能改善を図ります 第8章 安全で利便性が高い都市基盤の充実 第1節 計画的な都市づくり 【(4) 市民協働、民間活力の導入による公園の管理運営と魅力ある公園づくり】 ア 市民協働や公募設置管理制度・ふるさと納税制度などの民間活力導入による管理運営を実施します。 イ 公園の使い方について、地域の意見を踏まえ柔軟な対応を検討するなど、既存公園の有効活用に取り組みます。 ウ 防災拠点機能や地域活動の拠点機能という視点を踏まえ、幅広い年代が利用しやすい安全・安心で魅力的な公園を提供します。
熊本市地域防災計画 (2022 年度版・熊本市)	指定緊急避難場所(災害種別:地震、高潮、土砂、津波) ※指定避難所には指定されていない
熊本市都市計画 マスタープラン 地域別構想 (2018.9・熊本市)	4章 分野別の基本的な方針 5 自然環境保全及び公園緑地等公共空地整備の方針 (7) 公園緑地等公共空地整備の方針 現在、本市には、約 1000 箇所の公園があり、良好な景観の形成や生活環境の向上のほか様々な生物の生息・生育空間の確保、加えて豊かな地域づくりに資する交流の場の提供など、都市の根幹的な施設としての多様な役割を果たしています。 今後、市民の公園に対するニーズが多様化するなか、時代の潮流に対応した公園づくりに取り組むとともに、公園不足地域の解消に努めます。 また、市民の身近なレクリエーション空間やコミュニティ形成の場となる住区基幹公園(街区公園、近隣公園、地区公園)については、地域の共有財産と位置づけ、市民等との協働による適正な維持・管理を推進します。
熊本市緑の基本計画 (2021.3・熊本市)	第4章 基本理念・基本方針・計画推進のための施策 基本方針3 緑を活かす(様々な機能を持つ緑の活用) 2 都市公園の魅力の向上による身近な緑の活用 (3)官民連携による公園の魅力の向上 いつでも誰もが安全・快適に公平で、楽しい利用ができるように、管理運営の充実に努めます。また、地域住民や民間企業等の民間活力を導入した公園づくりを推進します。
熊本市公共施設等 総合管理計画 (2022.3・熊本市)	Ⅵ 保有する建築物及びインフラに関する施設分野別課題と対応方針 2. インフラ資産 (3)公園ーインフラ分野別方針 ・人口の減少や施設の老朽化が進んでいることを踏まえ、今後の公園施策は、新設から既存公園の有効活用へ転換するとともに、適正な維持管理を推進します。 ・いつでも誰もが安全・快適に公平で、楽しい利用ができるように、管理運営の充実に努めます。また、地域住民や民間企業等の民間活力を導入した公園づくりを推進します。 ・主要な公園については、令和4年度(2022年度)を目途に長寿命化計画を策定し、計画的に施設の長寿命化を図ります。 ・長寿命化計画を未策定の公園についても、パトロールや点検等を適切に実施するとともに、問題が確認された場合には応急で利用禁止の措置を行うなど、引き続き適切な管理に努めます。 ・公園愛護会の担い手の確保に努めるとともに、地域活動への周知や愛護会相互の情報交流の促進に取り組みます。 ・長期間未整備となっている都市計画公園については、長期未整備都市計画公園見直しガイドラインに基づき、順次見直しに取り組みます。

※本事業に関連する部分を赤字で表示